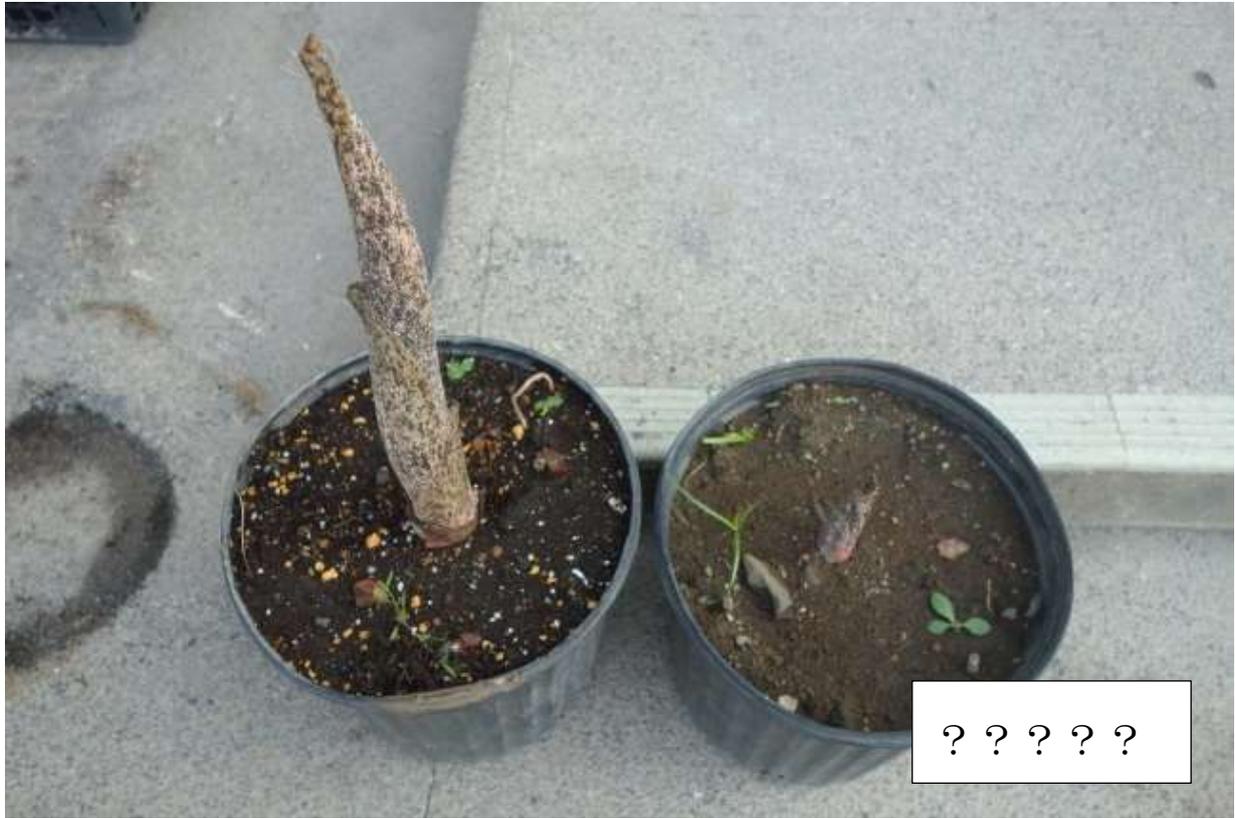


花ちゃん・オー君・モンタ博士・フツ博士のかくかくド探偵てくてく5

国立市立国立第七小学校

平成29年6月23日 NO.29 (429)



オー君 「あ！これは、学校の西昇降口にあるものだ。」

花ちゃん 「わたしも見ました。何だか不思議なものですね。」

オー君 「鉢に植えてあるから、植物みたいだけど……。」

花ちゃん 「によきによきと、毎日少しずつ伸びているようですね。」

オー君 「なんだろう。ひょっとしてタケノコかな。」

花ちゃん 「そうね。タケノコか……でも、ちがうような気もするね。」

モンタ博士 「はい！みなさん。こんにちは！これはなんでしょうか。」

オー君 「そうだ。国立七小の先生たちに聞いてみよう。」

モンタ博士 「そうだね。それはいい考えだね……と言いたいところだね。でも、この前、

国立七小の先生に聞いたけど、正解ではなかったよ。」

花ちゃん 「先生たちも知らないんだ。モンタ博士！何かヒントをください。」

モンタ博士「そうだね。これは、植物^{しょくぶつ}であります。そして、この植物^{しょくぶつ}のもとを、
校長室^{こうちょうしつ}前に置いてあったんですよ。」

オー君 「へえー。そうなんだ・・・。それじゃ、これは、エアプランツ？ハエとり^{そう}草？
そうだ。のびのびくんかな。」

モンタ博士「残念^{ざんねん}でした。ちがいます。」

花ちゃん 「他^{ほか}のヒントをください。」

モンタ博士「そうだな。ひらがなで5文字^{もじ}、小さい『や』の文字^{もじ}もあるね。」

オー君 「うわあー。むずかしいなあ。ギブアップです。」

モンタ博士「正解^{せいがい}は、『こんにゃく』です。」

花ちゃん 「こんにゃくって、あのおでんにして食^たべたりするものですか。」

モンタ博士「そのとおりさ。あまからいお味噌^{みそ}をつけて食^たべるとおいしいね。」

オー君 「こんにゃくゼリーにする、あのおこんにゃくですか。」

花ちゃん 「へえー。わたし、初^{はじ}めて見^みました。」

オー君 「もちろん、ぼくもです。ところで、この後^{あと}、このこんにゃくというのは、
どうなるのですか。もっと伸^のびていくのですか。」

モンタ博士「さあ、どうだろうね？」

花ちゃん 「どのくらいの大^{おお}きくなるのですか。」

モンタ博士「そうだね。どのくらい大^{おお}きくなるかね。」

花ちゃん 「花はどんな花が咲くのですか。」

モンタ博士「さあ、どんな花なのかね。モンタ博士が正解を言ったのではつまらないね。
みんなでどうなるかがっちり観察してみましよう。鉢植えのこんにゃくは、
このまま置いておくので、みんな楽しみにしててね。」

こんにゃく賛歌

食用部は、根でも茎でもなく、担根体と呼ばれる茎の基部が球形になった部分でコンニャクだまという。子球は3年目には直径10センチくらいに達し食用に加工する。スーパーなどでも販売していることがあり、上記のように観察用としてもかなり楽しめる。5年目くらいの老齢のものに花がつくそうであるが、まだ見た事はない。食用にする主成分は、多糖類の一種でマンナンという。花序には、1枚の仏炎包と肉穂というものがあり、肉穂の上に雄花下に雌花をつける。コンニャクなどサトイモ科植物の一部は、貧栄養では雄花となり、富栄養では雌花になる等、途中で性転換をする植物群もある。